

II 「いじめ」などの行為を行っている子どもの変化

「いじめ」は、その対象となった子どもの心身に大きなマイナスの影響を与えることから、“暴力”と認識して、対応する必要があります。

いじめを軽く考えないでほしい。いじめは犯罪にもなることを、いじめる側にしっかり理解させるような対応をしてほしい。

いじめる側の親にも責任があり、毅然とした対応をしてほしい。

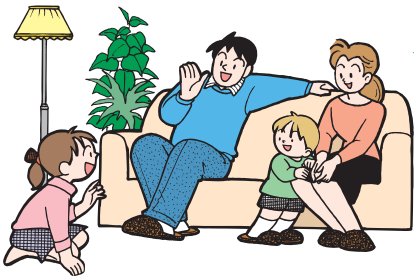
〈「いじめをなくそう」子ども会議における子どもたちからの意見より〉

「いじめ」をしている子どもは、いじめに遭っている子どもより、その行動に気づきにくい傾向にあります。それは本人に「いじめ」という認識がなかったり、また隠そうとするからです。

～いじめる側からの発見もたいへん重要なことです。～

「いじめ」をしている可能性がある子どもの変化 チェックリスト

	チェック欄
借り物が多くなるなど、買ってない物を持っていることが増えた。	
金遣いが荒くなった。	
小遣いの割に、遊びや服装が派手になった。	
家族に反抗的な態度が増えた。	
外出が増えた。	
刃物に強い興味をもつようになった。	
家族との会話が少なくなった。	
言葉遣いが荒くなった。	
家族に暴力をふるうようになった。	
人を軽蔑するような発言がみられるようになった。	
表情が険しくなった。	
友人関係に上下が感じられる。	



★今の子どもを取り巻く環境は、私たち大人の育った環境とはまったく違います。

「お父さん・お母さんが子どもの頃は…！」は通じないことを認識して子どもと接することが必要です。

★《「いじめ」に遭っている・「いじめ」をしている》そのことを家族にも誰にも言えず、ひとりぼっちで悩んでいないか、細心の注意を払って子どもの様子を見てください。